

2018 年 6 月 4 日

難治性疾患に対する新薬を開発する、パイプライン型創薬ベンチャー 株式会社キュラディムファーマへの追加出資について

- ・国内製薬会社から有望シーズをスピンアウトして新薬を開発
- ・アンメットメディカルニーズの高い免疫領域の難治性疾患に対して革新的な新薬を提供

株式会社産業革新機構（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝又幹英、以下「INCJ」）は、難治性疾患に対する新薬開発を行う、株式会社キュラディムファーマ（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：内ヶ崎哲、以下「キュラディムファーマ」）の事業進捗に伴い、同社の第三者割当増資を引き受け、12 億円を上限とする追加出資を行うことを決定し、9 億円の出資を実行しました。また、既存株主の SMBC ベンチャーキャピタル株式会社に加え、DBJ キャピタル株式会社、山口キャピタル株式会社が新たに出資を行いました。今回の調達資金は、新薬の研究開発に供されます。

キュラディムファーマは、国内製薬企業等から有望な創薬シーズを導入し、非臨床試験から早期臨床開発までを専門的に行うパイプライン型創薬ベンチャーです。近年、国内製薬企業で開発されていたシーズが、事業戦略の変更などに伴って開発が中断されるケースが増えており、その結果、日本発シーズが実用化されにくくなっています。このような課題に対して、キュラディムファーマは、国内製薬企業に眠る有望なシーズをスピンアウトさせて日本発の画期的新薬を開発し、アンメットメディカルニーズの高い免疫領域を中心とした難治性疾患の治療に貢献することを目的に、INCJ 主導のもと 2016 年 6 月 29 日に設立されました。

キュラディムファーマは Meiji Seika ファルマ株式会社（同社における化合物番号：CP9531）から導入した化合物、スフィンゴシン 1-リン酸（S1P）受容体調節薬（開発コード：CP1050）で、多発性硬化症^{*1}をはじめとする自己免疫疾患の治療薬の開発を進めています。導入後、必要な非臨床試験を推進し 2018 年 2 月から英国にて第 I 相臨床試験を開始しています。本試験は、健常人を対象に CP1050 の安全性および忍容性の確認を目的としています。

^{*1} 多発性硬化症とは、脳や脊髄などの中枢神経を保護している髄鞘（ずいしょう）が破壊され、神経伝達に障害を来す病気で、厚生労働省の指定難病。

さらに、キュラディムファーマは国内製薬企業等に眠るシーズの発掘を続けていく中で、2018 年 3 月、第 2 パイプラインとして、宇部興産株式会社が創出した特発性肺線維症（IPF）に対する新薬候補化合物、リゾホスファチジン酸受容体 1（LPA1）選択的アンタゴニスト（開発コード：CP2090）に関するライセンス契約を締結し、独占的開発権を取得しました。IPF は、原因不明の間質性肺炎の一種で診断後の平均生存期間が 3～5 年間とされる極めて予後不良の疾患であり、厚生労働省の難病に指定されています。キュラディムファーマは今後 GLP^{*2}に準拠した非臨床試験を開始する予定です。

^{*2}GLP：Good Laboratory Practice の略で、日本語では「医薬品の安全性試験の実施に関する基準」。非臨床安全性試験を適切に実施してデータの信頼性を確保するための基準。

INCJ は、キュラディムファーマが開発する革新的な医薬品の提供を通して、アンメットメディカルニーズの高い免疫領域の治療に貢献できることから、2016 年 8 月に 10 億円を上限とする支援を決定し、同額の出資を実行しました。その間、キュラディムファーマは高い専門性とスピードで順調に事業を推進しています。同社のこれまでの実績を踏まえ、今回 INCJ は 12 億円を上限とする追加支援を決定し、9 億円の出資を実行しました。INCJ は、キュラディムファーマへの支援を通して、製薬業界における新たなモデルケースの創出を図るとともに、研究技術や人材の流動化を促し、オープンイノベーションの推進を目指します。

株式会社キュラディムファーマについて

設立 : 2016 年 6 月
事業内容 : 医薬品の研究開発
本社所在地 : 東京都千代田区
代表取締役社長 : 内ヶ崎 哲
URL : <http://curadim.co.jp/>

株式会社産業革新機構（INCJ）について

INCJ は、2009 年 7 月にオープンイノベーションの推進を通じた次世代産業の育成を目指して、法律に基づき設立された会社です。総額約 2 兆円の投資能力を有しており、革新性を有する事業に対し出資等を行うことで産業革新を支援することをミッションとしています。

INCJ は、投資・技術・経営等で多様な経験をもつ民間人材によって運営されており、法令に基づき、当社内に設置している産業革新委員会にて、政府の定める支援基準に従って投資の可否の判断を行い、日本の産業革新に資する投資を実施いたします。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

株式会社 産業革新機構 企画調整 Gr. 広報 入江、坂井
東京都千代田区丸の内 1-4-1 丸の内永楽ビルディング 21 階
電 話 : 03-5218-7202 URL : <http://www.incj.co.jp/>

[別添]

株式会社産業革新機構

追加支援決定案件の概要

1. 対象事業者

株式会社キュラディムファーマ

- ・ 設 立 : 2016 年 6 月
- ・ 代表者 : 内ヶ崎 哲
- ・ 所在地 : 東京都千代田区
- ・ 事業内容 : 医薬品の研究開発

2. 支援決定概要

- ・ 支援決定金額 : 12 億円（上限）
- ・ 実投資額 : 9 億円
- ・ 支援決定公表日 : 2018 年 6 月 4 日
- ・ 共同投資家(シリーズ B) : SMBC ベンチャーキャピタル株式会社、DBJ キャピタル株式会社、山口キャピタル株式会社
- ・ これまでの支援決定内容
シリーズ A : 支援決定金額 10 億円（上限）、実投資額 10 億円、支援決定公表 2016 年 8 月
<https://www.inci.co.jp/news/assets/1473224668.01.pdf>
- ・ 投資ストラクチャー図 : 別添

3. 投資意義

<社会的ニーズへの対応>

- ・ 国内製薬会社の事業戦略の変更に伴い、事業領域外となった有望シーズをスピニアウトしてベンチャー企業が開発する新しいモデルケースを創出
- ・ 製薬会社とバイオベンチャー企業が協業して新薬開発を推進する事例を創出することにより、ライフサイエンス分野におけるエコシステムの確立に寄与
- ・ 多発性硬化症治療薬をはじめとする難病へ新薬を提供し、アンメットメディカルニーズの充足に寄与

<成長性>

- ・ アンメットメディカルニーズの高い難治性疾患に対して、革新的な新薬を提供
- ・ キュラディムファーマが複数のパイプラインを有し、継続的に新薬開発事業を展開

<革新性>

- ・ 日本では前例の少ない、国内製薬企業からのスピニアウトベンチャーを支援し、新たなモデルケースを創出

4. 大臣意見

主務大臣（経済産業大臣）意見

本事業は、国内製薬企業に埋もれた革新的シーズを発掘・スピンアウトし、医薬品開発を行う新たな創薬モデルの確立を目指すものである。国内外の製薬企業との連携体制を適切に構築することで、国内の有望なシーズが優れた新薬となって世界に供給されるよう必要な支援に取り組まれない。

事業所管大臣（厚生労働大臣）意見

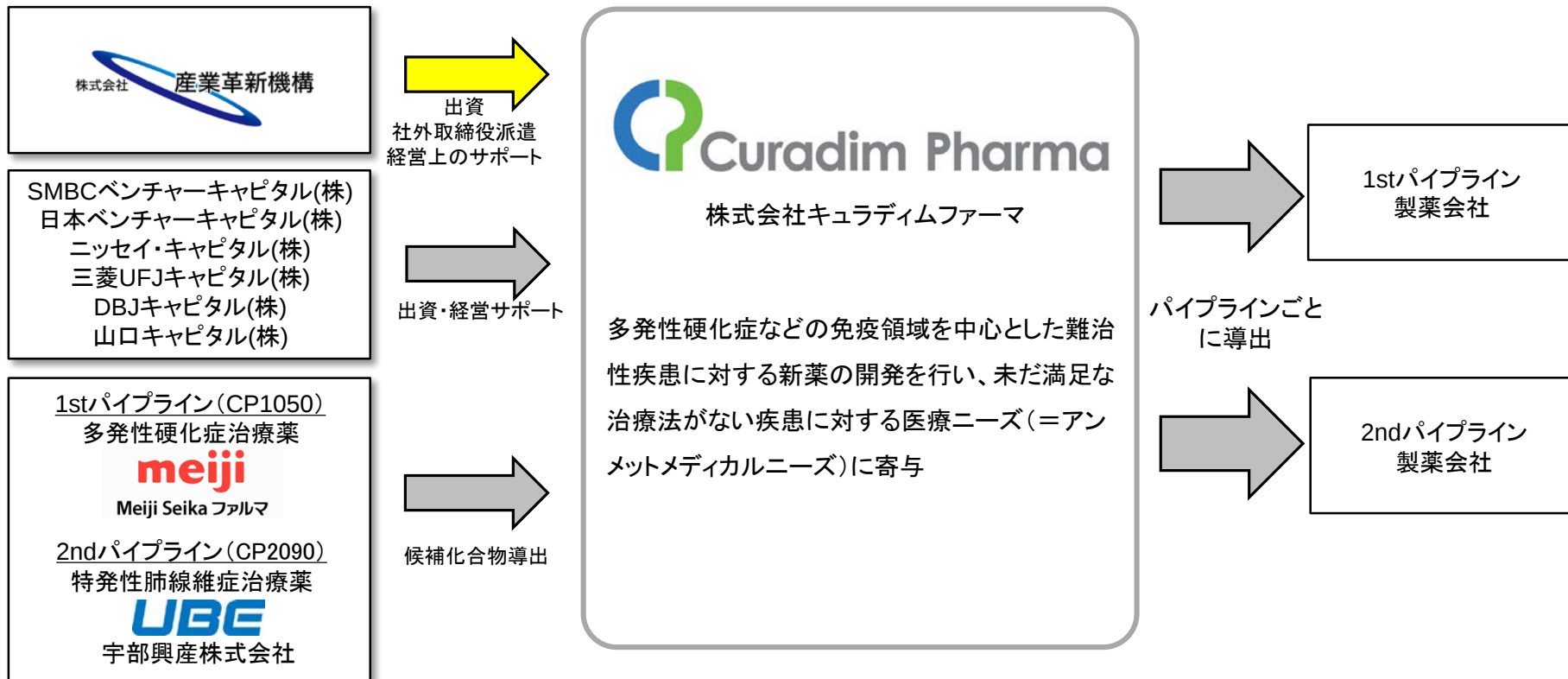
本件については、今後、治験の第Ⅱ相試験以降における大手製薬会社との共同開発に関する契約締結に際して、国際共同治験の実施を検討するなど、国内の対象患者に対しても早期に治療薬を提供できるよう、必要な取組を進めていただきたい。

投資対象：株式会社キュラディムファーマ

事業内容：医薬品の研究開発

支援決定金額：10億円(上限)／12億円(上限)

支援決定公表日：2016年8月4日／2018年6月4日



- ・国内製薬会社発アールリーステージ・シーズの開発を行うスピンアウトベンチャーを設立段階から支援することによって、新たなモデルケースの創出を図る
- ・製薬業界における人材、研究技術の流動化を促し、オープンイノベーションの推進を目指す
- ・アンメットメディカルニーズの高い難病に対し、革新的な医薬品の提供を通して、社会課題の解決に貢献する